

◆特集 定年後再雇用賃金の減額

安上がりな労働力として

元自治体労働者

荒畑 正子

「結婚後働く選択肢はなかった」と

16年前60歳で定年退職となりました。「定年のお祝いを」と女性たちが集まってくれた時、2年先輩の女性が「私は結婚するとき働くという選択肢が全くなかった」と話していたのが印象的でした。まだまだ働き続けることを意識する女性が少なかった時代でした。

定年前は、合併・政令市移行と大合理化の連続でした。2007年3月退職。私は再雇用を考えていました。ちょうど同居していた夫の母がデイサービスに行っていたのですが、帰ってからの見守りが欲しいと思いを探していた時でした。学習会では「定年まで働いてきたのだから、もういいのでは」という意見もありましたが、何とか働けないかと思いつきに話していました。夫や姉の協力は本当に助かりました。しかし、社会的な

整備の不十分さも感じました。

再雇用の職場では

再雇用は、2分の1勤務と4分の3勤務を選ぶことができました。私は後者を希望。再雇用先は区役所の窓口でした。課長の説明では、9時から16時までの勤務とのこと。15分長い勤務時間なので、「あれ？」と思い尋ねました。私も主張しましたので、検討することでした。その後私の意見で良いことになり、9時15分～16時勤務、昼休み1時間(休憩45分+休息15分)が始まりました。他の部署の人にも連絡をとりました。1日15分は大きいものがありますので喜ばれました。良かったと思えました。

賃金は20万円チョットくらいで、前の6割くらいだったと記憶しています。一時金は6月と12月で、

年間2・35月分でした。健康保険は共済保険の継続を選び2年間、あとは政府管掌の健康保険に加入となりました。再雇用は研修もなく即戦力で安いし、1年契約で当局にとっては使い勝手のいい労働力だと感じましたが、こちら働かないと生活が大変です。

公務員バッシングもひどい時でした。大きな声で怒鳴られることもあり。時には「始末書をかけ」「交通費を出せ」「日当を出せ」などと迫られることもありました。前職場の後輩が「退職まであと何日だ」とよく電話してきたことを思い出します。気持は良くわかります。社会の風を感じられ勉強になった日々もありました。職員がきちんと配置されていれば丁寧な対応ができますが、そうでないとやっばり大変でした。そんな中で、安上がりに使われている実感がありました。要求し誇りをもって働き続けてきました。現在では窓口業務の民間委託が進んだと聞いています。安心して子育てができ、安心して介護ができ、安心して働き続けられる人間らしい社会にしていきたいのだと思ってきました。

資本の常識に負けないために

現在の年金は、共済年金14万8535円と基礎年

金5万3843円で合計20万2378円が、介護保険料、後期高齢者医療保険料、住民税等をひかれた後の月額です。それから固定資産税等も払わねばなりません。

昨年10月から医療費の窓口支払いは2倍となりました。かつて埼玉県の老人医療費は68歳以上無料でした。スーパーに行くとも物価高をヒシヒシと感じます。10月に値上げされる食品は4634品目に上り、12月までに予定されているものも加えると3万1887品目となる(帝国データバンク調べ)とのこと。生活不安はますますばかりです。

財務省が9月1日に発表した昨年度の内部留保は554兆7777億円となり、過去最高を更新。一方「労働分配率」は1・4ポイント低下したとのことです。矛盾を感じます。この現状を変えたいものです。

再雇用満了まで働き、職場を離れて12年になりましたが、今でも毎月1回元職場の女性4人で集まります。『月刊まなぶ』があつて、職場を離れても集まることのできることは人生の宝です。資本の常識に負けないために学習交流が大切と思っています。

(あらはた まさこ)